

日銀所長のあさひかわ楽 がく

⑧

本コラム第二弾では、日銀が当地に事務所を構えて六十年余りが経過していることをお伝えしましたが、皆さんは、明治の一時期に日銀が当地に拠点を構えていたことをご存知でしょうか。

明治三十年（一八九七年）十月一日、日銀北海道支店（現函館支店）所管のもと旭川に派出所が設置され、九年間、当地で業務を行っていました（明治三十二年からは札幌出張所所管。何



日銀創業時の営業所（開拓使東京出張所跡）

日銀と北海道、旭川（歴史編）

をやっていたかと言いますと、支庁金庫事務、旧第七師団関係の国庫金出納事務、為替業務と記録されています。

実は、日銀が北海道で最初に拠点を出したのが、そ

れより四年前の明治二十六年（一八九三年）で、当時北海道行政の拠点であった函館、札幌、根室に出張所を、その傘下に把握島紗那を含む十六の派出所を設け、主として国庫金事務を

行っていました（沿岸部が中心で、旭川以北では上記紗那のほか増毛、宗谷、網走に置かれていました。旭川派出所は、その後、内陸部の開発と共に帯広派出所と同時に設置されたこととなります。

しかし、その後地元への民間銀行の進出・整備と共に統合され、明治三十九年には旧北海道銀行（昭和九年に旧北海道拓殖銀行に合併）に業務を譲って、閉鎖しました。

付け親である松浦武四郎が同出張所の初代開拓判官として勤めていました。その後、黒田清隆が、開拓次官、開拓長官として勤めました。

さらに歴史を紐解くと、日銀が設立されたのが明治十五年ですが、この時、最初の営業所として使用した建物（北海道）開拓使東京出張所が使用していた建物です。隅田川にかかる永代橋のもとにあったもので、現在の日本橋箱崎町あたりです。蝦夷地を探索し、「北海道」という名前を

（日本銀行旭川事務所長 ※毎月第一週に掲載します）

尾家啓之（おいえひろゆき）さん 一九五八年（昭和三十三年）東京都生まれ。八一年（同五十六年）日本銀行に入行。米國ワシントンでの勤務や、橋本内閣の行政改革会議事務局への出向、総務人事企画などを経て、〇七年（平成十九年）から旭川事務所長。趣味は音楽全般、ミュージカル鑑賞、社交ダンス。